

中国内蒙古における商業的農業生産の進展と土地条件

Landuse condition and development of commercial farming in Inner Mongolia, China

佐々木 達^{1*}, 関根良平², 蘇德斯琴³, 大月義徳⁴

SASAKI, Toru^{1*}, Ryohei SEKINE², Sudesiqin³, Yoshinori OTSUKI⁴

¹札幌学院大学, ²東北大学大学院環境科学研究科, ³内蒙古大学, ⁴東北大学大学院理学研究科

¹Sapporo Gakuin University, ²Tohoku University, ³Inner Mongolia University, ⁴Tohoku University

近年、中国は顕著な経済発展を続けている一方で、沙漠化や黄砂などの自然環境の劣化が指摘されている。とくに、内蒙古のような半乾燥 - 乾燥地域では、人間の生産活動（農業）を持続的に行なうために適切な自然資源の利用・管理がなされなければ過剰利用を引き起こす可能性が高い。具体的には、深耕によって土壌構造が破壊されることで、春先の雪解け水や夏季の降雨によって表面流出の水が土壌浸食を引き起こすことなどである。とりわけ、1980年代の新たな農家請負制度の導入は、農牧業における生産意欲と生産力の向上をもたらした反面、自然資源の劣化を招いていると政府も認識している。そのため、退耕還林政策や禁牧政策、生態移民政策などの環境保全政策が実施されてきた。厳しい自然条件の下での農牧業の持続可能性を考える際には、稀少化する生産手段としての土地資源の利用管理の実態を把握する必要がある。しかし、われわれのこれまでの研究は自然地理的条件あるいは地形条件と結びつけて論じる視点は希薄だった。そこで本報告では、自然資源の有効利用や管理手法を考える際にこれまでの調査結果から見えてきた論点の再整理を試みることで「自然と人間のかかわり」について考えてみたい。

本報告の目的は内蒙古自治区中央部の呼和浩特市武川県五福号村におけるこれまでの調査結果から以下の点について議論することにある。第一に、農地制度の転換や高度経済成長の下で当該地域の農業生産はどのような実態にあるのか。第二に、商業的農業の進展は土地利用にどのようなインパクトをもたらしているのか。最後に、それらを通じて自然資源の有効利用や管理手法を考える際の共同研究から得られた知見の意義と課題を提示する。

キーワード: 土地条件, 商業的農業, 自然資源, 内蒙古

Keywords: landuse condition, commercial farming, natural resources, Inner Mongolia